

平成 29 年度 事務事業評価シート 【 事後評価 】

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計		款	項	目	事業コード	事業名		
一般		08	01	01	184600	道の駅整備事業		
総合計画	分野	暮らし						
	政策	2-2	生活基盤の充実					
	施策	1	道路環境の充実					
目的		道路利用者の利便性の向上、安全で快適な道路環境の形成と地域の振興						
対象		西南地域（笹間・太田地区）						
意図		道の駅設置について検討を行う						
事業概要 …上記目的を実現するための事業手法を記載すること								
○道の駅整備 土木基本設計業務委託 建築基本設計業務委託 整備検討委員会開催（4回） 市民説明会の開催								
市民参画の有無 【 】								
市民協働の形態		共催		実行委員会・協議会		事業協力・協定		
		後援・協賛		補助・助成		委託		
活動指標（上記「事業概要」に対応）		単位		区分	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(計画)	
①	花巻市「（仮称）西南道の駅」整備検討委員会		回	計画	4	4		
				実績	4	4		
②				計画				
				実績				
③				計画				
				実績				
成果指標（上記「意図」に対応）		単位		区分	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(計画)	
①				目標				
				実績				
②				目標				
				実績				
③				目標				
				実績				
成果指標の達成度			目標値より高い	○	概ね目標値どおり		目標値より低い	

成果指標の達成度の要因分析 （新規事業及び成果指標を変更した場合は、その成果指標を設定した考え方、目標値の根拠を記載）		
平成28年度に道の駅整備検討委員会を設置し、基本構想を策定した。平成29年度には、新たに花巻農業協同組合企画管理部長、国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所調査第二課長を加え、引き続き道の駅整備検討委員会を開催し意見を伺いながら進めることができた。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	地域課題を解決していくためのもので、公共関与は妥当である。
	○ 妥当である	
	見直し余地がある 妥当でない	
有効性	成果の向上余地	基本構想の策定により、今後の西南地区への道の駅整備の規模、運営体制等決めていく必要がある。
	○ 向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	事業費・人件費ともに、策定にかかる委託料や検討委員会、意見交換会にかかる最低経費であり、削減余地はない。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある ○ どちらも削減余地がない	
公平性	受益と負担の適正化余地	西南地区に整備する予定のものだが、市内に既存の3つの道の駅と役割分担を図りつつ、4つの道の駅が連携することにより、地域活性化を図っていくことが可能であり、適正である。
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある ○ 適正である	
総合評価 …上記評価結果の総括		
道の駅を核とした地域の連携強化を図り、道路利用者に安全で快適な交通環境を提供するため、西南地区へ道の駅を整備することにより、地域課題である人口減少や高齢化、基幹産業である農業の活力低下、公共交通不便地域としての買い物難民の増加や食堂が無いなどの課題を解決しようとするものだが、今後、実施設計を進めながら、詳細な施設や設備のレイアウト、運営体制等決めていくとともに、既存の道の駅との連携を図っていく必要がある。		

平成 29 年度 事業説明資料 【 事後評価 】

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計	款	項	目	事業コード	事業名
一般	08	01	01	164600	道の駅整備事業

単位：千円				
	28年度 決算額(A)	29年度 決算額(B)	30年度 現計予算額	決算額前年比 (B-A)
事業費	5,514	26,733		21,219
財 源 内 訳	国・県			
	地方債			
	その他			
	一般財源	5,514	26,733	21,219

※特定財源の内訳

事業期間	○	単年度繰返	期間限定	[平成 年度 ~ 平成 年度]
部重点施策における目標				
安全で利便性の高い道路の整備を進める				
事業開始の背景・経緯				
平成26年2月に西南地域振興協議会から要望書が提出され、実施について検討を開始した。 平成28年度に、花巻市「（仮称）西南道の駅」基本構想を策定する。 平成29年度に、基本設計を策定する。				
事業概要				
○道の駅整備 土木基本設計業務委託 建築基本設計業務委託 整備検討委員会開催（4回） 市民説明会の開催				
意見・要望等の状況（市政懇談会や支所執務、議会答弁対応その他意見・提言等）				

担当部署 部名 建設部 課名 道路課 担当係長 小原 正吾 内線 544 (単位：千円)

《事業手法の詳細》…概略図による事業手法の詳細と事業費の内訳を記載すること。
【適宜、セルは結合して構わないが、結合した1つのセル内は1文章程度にとどめること。】

基本設計業務委託（土木設計費）1.4ha 20,919千円
基本設計業務委託（建築設計費）330㎡ 5,292千円
不動産鑑定評価業務委託 442千円 計 26,653千円
整備検討委員会委員報酬（@4,000×のべ20名） 80千円

■主要地方道盛岡和賀線笹間バイパス沿いの太田・笹間地区へ道の駅設置

【施設（案）】敷地面積：約1.4ha
県：駐車場、公衆トイレ、情報発信施設（道路情報・観光案内・休憩室）
市：地域振興施設（産直等）、駐車場、交流施設等
民間：コンビニエンスストア、ガソリンスタンド

■「（仮称）道の駅西南」基本設計

花巻市太田・笹間地区に整備予定の道の駅基本方針を定め、花巻市「（仮称）道の駅西南」整備に向けてのあり方を検討し、観光資源の有効活用と道路利用者への利便性等を考慮した、花巻市の地域振興や産業振興に寄与する基本構想を基に基本設計を行う。

■提案実現のための実施体制

平成28年度に「（仮称）西南道の駅」整備検討委員会を設置し、基本構想を策定。道路管理者である県（花巻土木センター）や地元の西南地域振興協議会などと連携し協議を進めている。

■マスタースケジュール

工種等	28	29	30	31	32	33
基本構想	⇒					
基本設計		⇒				
実施設計			⇒			
土地利用法規制関係 連 (農振・農転・開発等)		⇒				
用地取得			⇒			
土木工事				⇒		
建築工事					⇒	
オープン						⇒

平成 29 年度 事務事業評価シート 【 事後評価 】

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計	款	項	目	事業コード	事業名
一般	08	02	02	184040	生活道路維持事業費
総合計画	分野	暮らし			
	政策	2-2	生活基盤の充実		
	施策	1	道路環境の充実		
目的	生活道路の維持管理				
対象	道路利用者				
意図	安全で快適な通行を確保する。				
事業概要 …上記目的を実現するための事業手法を記載すること					
○市道維持管理（舗装修繕、除雪等）					
市民参画の有無 【 対象外 】					
市民協働の形態		共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定	
		後援・協賛	補助・助成	委託	
活動指標（上記「事業概要」に対応）		単位	区分	28年度(実績)	29年度(実績) 30年度(計画)
①	当該年度の舗装修繕件数	路線	計画	17	46
			実績	24	43
②	当該年度の補修件数	件	計画	250	421
			実績	319	455
③	当該年度の除雪回数	回	計画	10	10
			実績	8	16
成果指標（上記「意図」に対応）		単位	区分	28年度(実績)	29年度(実績) 30年度(計画)
①	当該年度の舗装修繕延長	m	目標	7,000	7,000
			実績	11,053	6,184
②	市の瑕疵による事故件数	件	目標	0	0
			実績	1	3
③			目標		
			実績		
成果指標の達成度	目標値より高い		○	概ね目標値どおり	目標値より低い

成果指標の達成度の要因分析 （新規事業及び成果指標を変更した場合は、その成果指標を設定した考え方、目標値の根拠を記載）		
道路維持全般について、概ね目標どおりの結果となったが、道路補修件数については、現在も地震の影響による道路沈下が現れていることから補修件数の目標値を上げる。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	市道の管理は道路管理者である市が行うものであり、道路の維持補修を実施するのはこの事業だけである。
	○ 妥当である	
	見直し余地がある	
有効性	成果の向上余地	舗装など道路の破損箇所については、道路パトロールや補修要望により毎日のように発見されているものの全てに対応出来ない状況であることから、道路パトロール、現地確認、補修対応と早期発見、早期補修につとめることで成果向上につながる。
	○ 向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	道路施設の劣化や破損は今後も進むことから、補修箇所が減少する可能性は少なく、安全確保に必要な維持補修事業費の削減余地はない。維持補修箇所への早期対応が必要不可欠であり、パトロールや現地調査、苦情処理等、迅速で確実な対応を効率的に行うための直営人員体制強化が望ましく人件費の削減余地はない。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
公平性	受益と負担の適正化余地	市が管理し、不特定多数が利用する市道の修繕・補修を行う事業であり、受益者は公平・公正になっている。
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある	
総合評価 …上記評価結果の総括		
計画的に舗装修繕（オーバーレイ）を行う予定であったが、天候不順、災害対応のため目標延長を達成することができなかった。道路維持全般は概ね目標どおりとなった。 良好な道路の維持管理を継続していくためには、道路パトロールや現場確認、補修対応、苦情処理等への迅速で確実な対応体制を確保していく必要がある。		

平成 29 年度 事業説明資料 【 事後評価 】

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計	款	項	目	事業コード	事業名
一般	08	02	02	184040	生活道路維持事業費

単位：千円

		28年度 決算額(A)	29年度 決算額(B)	30年度 現計予算額	決算額前年比 (B-A)
事業費		762,787	1,224,148		461,361
財 源 内 訳	国・県		52,282		52,282
	地方債				0
	その他	967	1,011		44
	一般財源	761,820	1,170,855		409,035

事業期間	〇	単年度繰返	期間限定	〔平成 年度 ～ 平成 年度〕
部経営方針における目標				
安全、安心で快適な生活基盤の充実に努める。				
事業開始の背景・経緯				
市道の管理は道路管理者である花巻市が行うものであり、生活道路を安心して通行出来るようにするため。				
事業概要				
○市道維持管理（舗装修繕、除雪等）				
事業を展開する上での課題、留意事項 / 意見・要望等				
・ 1 班あたり現場担当職員 1 名＋臨時職員 1 名による 5 班体制で補修しているが、増加する市民の要望と年々減少する職員の状況から、特に支所管内では、通常の道路パトロールの確保が困難となっている。 ・ 作業班体制と地区範囲の見直し、集約を行い直営人員に応じた体制の検討を進める。 ・ 除雪委託費の効率的な執行のため、計算システムを運用する。 ・ 道路利用者の安全確保のため、降雨時浸水が予想される箇所へ防災WEBカメラを設置する。 ・ 緊急的な補修や除雪、苦情等への責任のある確実な対応と除雪機械の良好な管理を行うために、現場作業、重機作業が可能な直営体制を最小限確保する必要がある。				

担当部署 部名 建設部 課名 道路課 担当係長 佐藤 健 内線 577 (単位：千円)

《事業手法の詳細》…概略図による事業手法の詳細と事業費の内訳を記載すること。
【適宜、セルは結合して構わないが、結合した1つのセル内は1文章程度にとどめること。】

○ 市道の維持管理

1,164,935 千円

◇道路補修、路面・側溝清掃、除雪等業務

○オーバレイ補修

○路面補修（クラック・段差・沈下・穴）、道路施設補修

○路面・側溝・暗渠清掃側溝・照明・法面・防護柵）

○施設保守点検（照明・排水ポンプ）

○融雪装置点検補修（花巻駅通り、里川口上町他）

○緑地等管理（街路樹・法面路肩除草・害虫駆除

○除雪（延長1,884km）・支障木伐採等）

○補修資材（砕石・側溝・ガードレール等）

○凍結防止剤、消耗品等

◇道路照明・融雪施設電気料、建設機械修繕・燃料等
道路維持に係る諸経費

○電気・水道・通信料（照明・融雪施設・排水P電

○車両経費（タイヤ・チェーン等消耗品、燃料、車両借上料、車検）

○修繕料（道路照明、建設機械・パトロールカー等

○道路賠償責任保険（延長 3,507km）

○その他（汚泥処理手数料、土地借上料等）

◇作業員・運転手・事務補助員

○作業員 3人（大迫）

○運転手 7人（通年：花2、大2、石2、東1、排雪期：花1）

○事務補助（嘱託）員 5人（花1、大2、石1、東1）

○ 除雪機械の購入

1,102 千円

更新機械

用途

経過年数

経費

備考

小型除雪機

歩道除雪

1,102

石鳥谷

○ 市道の維持工事

26,459 千円

施設名

内容

事業費

備考

農道折壁線補修工事

道路補修

10,798

工事

1件

委託

市道落合小通線法面補修

法面補修

15,661

工事

1件

○ 除雪費計算システム業務

1,219 千円

項目

内 訳

経費

備考

除雪費計算システム

1,219

○ 防災WEBカメラ設置

2,845 千円

項目

内 訳

経費

備考

防災WEBカメラ

設置費用

2,845

5箇所

通信料別

○ 前年度繰越事業（繰越明許費

27,588 千円

向田瀬線災害復旧

測量設計委託

27,588

平成 29 年度 事務事業評価シート 【 事後評価 】

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計		款	項	目	事業コード	事業名		
一般		08	02	03	184070	生活道路整備事業		
総合計画	分野	暮らし						
	政策	2-2	生活基盤の充実					
	施策	1	道路環境の充実					
目的		地区要望を踏まえた道路整備						
対象		整備が必要な市道、市道利用者（車両、歩行者、沿線住民）						
意図		安全で快適な通行が可能になる。						
事業概要 …上記目的を実現するための事業手法を記載すること								
○生活道路整備 測量設計、用地測量、支障物件調査算定等の業務委託 道路新設改良舗装工事、現道舗装工事、側溝整備工事、防雪柵整備工事 事業用地買収、支障物件移転補償、電柱・水道等移転補償 【26年度】 新設改良(33路線)、現道舗装(7路線)、側溝整備(4路線)、融雪設備整備(1路線) 【27年度】 新設改良(19路線)、現道舗装(11路線)、側溝整備(5路線)、融雪設備整備(3路線) 【28年度】 新設改良(44路線)、現道舗装(16路線)、側溝整備6路線)、融雪設備整備(1路線) 【29年度】 新設改良(46路線)、現道舗装(28路線)、側溝整備(10路線)、融雪設備整備(2路線)								
市民参画の有無 【対象外】								
市民協働の形態		共催		実行委員会・協議会		事業協力・協定		
		後援・協賛		補助・助成		委託		
活動指標（上記「事業概要」に対応）		単位		区分	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(計画)	
①	新設改良事業実施路線	路線	計画	44	46			
			実績	48	43			
②	現道舗装事業実施路線	路線	計画	16	28			
			実績	16	28			
③	側溝整備事業実施路線	路線	計画	6	10			
			実績	7	10			
成果指標（上記「意図」に対応）		単位		区分	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(計画)	
①	新設改良整備(完成)延長	km	目標	4.1	2.3			
			実績	1.8	4.8			
②	現道舗装整備(完成)延長	km	目標	1.3	6.3			
			実績	2.9	6.4			
③	側溝整備(完成)延長	km	目標	1.2	2.2			
			実績	1.0	1.7			
成果指標の達成度		目標値より高い		○	概ね目標値どおり		目標値より低い	

成果指標の達成度の要因分析 (新規事業及び成果指標を変更した場合は、その成果指標を設定した考え方、目標値の根拠を記載)		
完成路線数や事業費等を検討し、事業路線数と完成延長を決定しているため。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	市管理道路の整備のため、妥当である。
	○ 妥当である	
	見直し余地がある	
有効性	成果の向上余地	本事業は、市道の新設改良、側溝整備を行うものであり、整備後は地域要望や道路環境を満足させた水準となることから、さらなる向上は難しい。
	向上余地がある	
	○ 向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	事業を実施するうえでは、計画・設計・説明会・関係機関協議・用地取得・工事積算・工事監督業務など多岐にわたるが、現在でも効率的な事業の執行に努めている。 また、外部委託を行なうなど人件費の削減に努めているが、守秘義務等の問題があり、外部委託にも限界がある。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
公平性	受益と負担の適正化余地	市道は不特定多数の人や車が利用するものであり、受益者を特定することは出来ない。
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある	
総合評価 …上記評価結果の総括		
・道路整備に対する要望が多数寄せられている状況から、今後も継続的な整備が必要である。		

平成 29 年度 事業説明資料 【 事後評価 】

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計	款	項	目	事業コード	事業名
一般	08	02	03	184070	生活道路整備事業

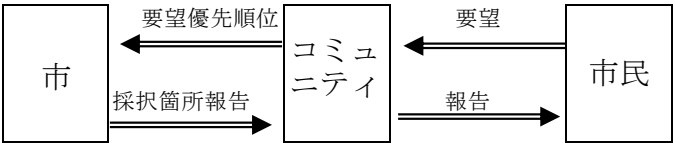
単位：千円					
		28年度 決算額(A)	29年度 決算額(B)	30年度 現計予算額	決算額前年比 (B-A)
事業費		1,033,656	1,108,557		74,901
財 源 内 訳	国・県	377,623	350,182		△ 27,441
	地方債	558,700	616,100		57,400
	その他		2,006		2,006
	一般財源		140,269		42,936

※特定財源の内訳				
・国／社会資本整備総合交付金				
・地方債／過疎対策事業債 合併特例債 公共事業等債 辺地対策債				
・その他／施設管理（北上市負担金）				

事業期間	○	単年度繰返	期間限定	〔平成 29 年度	～	平成 29 年度〕
部重点施策における目標						
安全で利便性の高い道路の整備を進める						
事業開始の背景・経緯						
交通の中心が車となったことにより、道路整備が求められるようになる。						
事業概要						
○生活道路整備 測量設計、用地測量、支障物件調査算定等の業務委託 道路新設改良舗装工事、現道舗装工事、側溝整備工事、防雪柵整備工事 事業用地買収、支障物件移転補償、電柱・水道等移転補償 【 2 6 年度】 新設改良(33路線)、現道舗装(7路線)、側溝整備(4路線)、融雪設備整備(1路線) 【 2 7 年度】 新設改良(19路線)、現道舗装(11路線)、側溝整備(5路線)、融雪設備整備(3路線) 【 2 8 年度】 新設改良(44路線)、現道舗装(16路線)、側溝整備6路線)、融雪設備整備(1路線) 【 2 9 年度】 新設改良(46路線)、現道舗装(28路線)、側溝整備(10路線)、融雪設備整備(2路線) 意見・要望等の状況（市政懇談会や支所執務、議会答弁対応その他意見・提言等）						
土木施設整備要望等						

担当部署 部名 建設部 課名 道路課 担当係長 駿河 世紀 内線 574
(単位：千円)

《事業手法の詳細》…概略図による事業手法の詳細と事業費の内訳を記載すること。
【適宜、セルは結合して構わないが、結合した1つのセル内は1文章程度にとどめること。】



○ 新設改良 平成29年度事業費 589,630千円
40路線 内完了路線 0路線
完成延長 L=1.3km

○ 現道舗装 平成29年度事業費 286,580千円
28路線 内完了路線 25路線
完成延長 L= 6.4km

○ 側溝整備 平成29年度事業費 137,984千円
10路線 内完了路線 0路線
完成延長 L=1.7km

○ 雪寒対策 平成29年度事業費 18,153千円
2路線 内完了路線 0路線
完成延長 L= 0.0km

ほか道路ストック総点検等 76,210千円

<H30繰越路線> 416,289千円 21路線
・新設改良 20路線 392,969千円 (完了見込路線 2路線)
・側溝整備 1路線 23,320千円

平成 29 年度 事務事業評価シート 【 事後評価 】

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計		款	項	目	事業コード	事業名		
一般		08	02	03	184070	生活道路整備事業(繰越分)		
総合計画	分野	暮らし						
	政策	2-2	生活基盤の充実					
	施策	1	道路環境の充実					
目的		地区要望を踏まえた道路整備						
対象		整備が必要な市道、市道利用者（車両、歩行者、沿線住民）						
意図		安全で快適な通行が可能になる。						
事業概要 …上記目的を実現するための事業手法を記載すること								
○生活道路整備 測量設計、用地測量、支障物件調査算定等の業務委託 道路新設改良舗装工事、現道舗装工事、側溝整備工事、防雪柵整備工事 事業用地買収、支障物件移転補償、電柱・水道等移転補償 【26年度】 新設改良(33路線)、現道舗装(7路線)、側溝整備(4路線)、融雪設備整備(1路線) 【27年度】 新設改良(19路線)、現道舗装(11路線)、側溝整備(5路線)、融雪設備整備(3路線) 【28年度】 新設改良(44路線)、現道舗装(16路線)、側溝整備(6路線)、融雪設備整備(1路線)								
市民参画の有無 【対象外】								
市民協働の形態		共催		実行委員会・協議会		事業協力・協定		
		後援・協賛		補助・助成		委託		
活動指標（上記「事業概要」に対応）		単位		区分	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(計画)	
①	新設改良事業実施路線	路線	計画		44	46		
			実績		48	43		
②	現道舗装事業実施路線	路線	計画		16	28		
			実績		16	28		
③	側溝整備事業実施路線	路線	計画		6	10		
			実績		7	10		
成果指標（上記「意図」に対応）		単位		区分	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(計画)	
①	新設改良整備(完成)延長	km	目標		4.1	2.3		
			実績		1.8	4.8		
②	現道舗装整備(完成)延長	km	目標		1.3	6.3		
			実績		2.9	6.4		
③	側溝整備(完成)延長	km	目標		1.2	2.2		
			実績		1.0	1.7		
成果指標の達成度	目標値より高い		○	概ね目標値どおり		目標値より低い		

成果指標の達成度の要因分析 (新規事業及び成果指標を変更した場合は、その成果指標を設定した考え方、目標値の根拠を記載)		
完成路線数や事業費等を検討し、事業路線数と完成延長を決定しているため。 ・成果指標である側溝整備延長については、事業区間地権者との交渉に時間を要したことにより目標値を下回った。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	市管理道路の整備のため、妥当である。
	○ 妥当である	
	見直し余地がある	
有効性	成果の向上余地	本事業は、市道の新設改良、側溝整備を行うものであり、整備後は地域要望や道路環境を満足させた水準となることから、さらなる向上は難しい。
	向上余地がある	
	○ 向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	事業を実施するうえでは、計画・設計・説明会・関係機関協議・用地取得・工事積算・工事監督業務など多岐にわたるが、現在でも効率的な事業の執行に努めている。 また、外部委託を行なうなど人件費の削減に努めているが、守秘義務等の問題があり、外部委託にも限界がある。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
公平性	受益と負担の適正化余地	市道は不特定多数の人や車が利用するものであり、受益者を特定することは出来ない。
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある	
総合評価 …上記評価結果の総括		
・道路整備に対する要望が多数寄せられている状況から、今後も継続的な整備が必要である。		

平成 29 年度 事業説明資料 【 事後評価 】

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計	款	項	目	事業コード	事業名
一般	08	02	03	184070	生活道路整備事業(繰越分)

単位：千円

		28年度 決算額(A)	29年度 決算額(B)	30年度 現計予算額	決算額前年比 (B-A)
事業費		1,033,656	617,070		△ 416,586
財 源 内 訳	国・県	377,623	343,429		△ 34,194
	地方債	558,700	243,800		△ 314,900
	その他				
	一般財源	97,333	29,841		△ 67,492

※特定財源の内訳	
・国／社会資本整備総合交付金	
・地方債／過疎対策事業債 合併特例債 公共事業等債	

事業期間	○ 単年度繰返	期間限定	〔平成 28 年度 ～ 平成 29 年度〕
部重点施策における目標			
安全で利便性の高い道路の整備を進める			
事業開始の背景・経緯			
交通の中心が車となったことにより、道路整備が求められるようになる。			
事業概要			
○生活道路整備 測量設計、用地測量、支障物件調査算定等の業務委託 道路新設改良舗装工事、現道舗装工事、側溝整備工事、防雪柵整備工事 事業用地買収、支障物件移転補償、電柱・水道等移転補償 【26年度】 新設改良(33路線)、現道舗装(7路線)、側溝整備(4路線)、融雪設備整備(1路線) 【27年度】 新設改良(19路線)、現道舗装(11路線)、側溝整備(5路線)、融雪設備整備(3路線) 【28年度】 新設改良(44路線)、現道舗装(16路線)、側溝整備(6路線)、融雪設備整備(1路線)			
意見・要望等の状況（市政懇談会や支所執務、議会答弁対応その他意見・提言等）			
土木施設整備要望等			

担当部署	部名	建設部	課名	道路課	担当係長	駿河 世紀	内線	574
(単位：千円)								

《事業手法の詳細》…概略図による事業手法の詳細と事業費の内訳を記載すること。
【適宜、セルは結合して構わないが、結合した1つのセル内は1文章程度にとどめること。】

市

要望優先順位

採択箇所報告

コミュニテイ

要望

報告

市民

【H28年度】

○ 新設改良 平成28年度事業費 833,767千円
48路線 内完了路線 5路線
完成延長 L=1.8km

○ 現道舗装 平成28年度事業費 104,499千円
16路線 内完了路線 15路線
完成延長 L=2.8km

○ 側溝整備 平成28年度事業費 78,369千円
7路線 内完了路線 1路線
完成延長 L=1.0km

○ 雪寒対策 平成28年度事業費 17,021千円
1路線 内完了路線 0路線
完成延長 L= 0.0km

＜H28繰越事業＞ 617,070千円 (672,270千円) () 内繰越予算

- ・新設改良 595,529千円
22路線 内完了路線 11路線 完成延長 L=3.5km
- ・雪寒対策 16,508千円
1路線(清水寺上後藤線) 完了路線 1路線 完成延長 L=0.2km
- ・その他 5,033千円
1路線(上町花城町線 擁壁設計)

平成 29 年度 事務事業評価シート 【 事後評価 】

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計		款	項	目	事業コード	事業名	
一般		08	02	04	184100	橋梁維持事業	
総合計画	分野	暮らし					
	政策	2-2	生活基盤の充実				
	施策	1	道路環境の充実				
目的		橋梁の維持管理					
対象		道路利用者、市民、修繕が必要な橋梁					
意図		橋梁修繕により、市内を安全で快適に移動できる。					
事業概要 …上記目的を実現するための事業手法を記載すること							
○橋梁維持 橋梁修繕設計、橋梁維持修繕工事、橋梁点検、橋梁予備設計							
【26年度】 橋梁補修工事 2橋（朝日橋・折居橋）							
【27年度】 橋梁補修工事 1橋（朝日橋） 調査設計 1橋（猫塚南境橋）							
【28年度】 橋梁補修工事 1橋（川原橋） 調査設計委託業務 3橋（横枕橋、東本館橋、中田橋） 橋梁定期点検 L≦15m 250 橋							
【29年度】 橋梁補修工事 4橋（猫塚南境橋、横枕橋、東本館橋、中田橋） 橋梁定期点検（L<15m 50橋、JR橋1橋 L≧15m JR橋 6橋） 調査設計委託業務 3橋（野田橋、松園橋、天下田橋）							
市民参画の有無 【 対象外 】							
市民協働の形態		共催		実行委員会・協議会		事業協力・協定	
		後援・協賛		補助・助成		委託	
活動指標（上記「事業概要」に対応）		単位		区分	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(計画)
① 修繕橋梁数	橋	計画			2	2	
		実績			1	0	
②		計画					
		実績					
③		計画					
		実績					
成果指標（上記「意図」に対応）		単位		区分	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(計画)
① 修繕対象橋梁修繕率（H21～H35：全26橋）	%	目標			15.0	42.0	
		実績			19.0	27.0	
②		目標					
		実績					
③		目標					
		実績					
成果指標の達成度		目標値より高い			概ね目標値どおり	○	目標値より低い

成果指標の達成度の要因分析 （新規事業及び成果指標を変更した場合は、その成果指標を設定した考え方、目標値の根拠を記載）		
修繕対象橋梁（H21～H35：全26橋）のうち、26年度までに4橋が修繕完了。 4橋／26橋＝約15％とした。 28年度までに朝日橋と折居橋、川原橋が修繕完了 7/26橋＝約27％とした 29年度は4橋（猫塚南境橋、横枕橋、東本館橋、中田橋）の修繕見込みのため 11/26橋＝42％を計画値とする。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	・公共施設である橋梁の補修なので妥当である。
	妥当である	
	見直し余地がある	
	妥当でない	
有効性	成果の向上余地	・前年度に橋梁補修内容の調査設計を実施し、補修内容、予算について精度を上げている。 ・以前より上記内容に取り組み、橋梁長寿命化において成果をあげていることから、更なる向上は困難である。 ・公共物の老朽化は年々進むことから、現在の取り組みを維持し、継続的に事業を進める必要がある。
	向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	・前年度に個々の橋梁補修内容について調査設計を実施。 ・それにより適正な補修方法、内容を検討。 ・あわせてコスト縮減についても検討。 ・積算、施工管理に係る事務経費の適正な遂行に必要な最低限の事務を行っている。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
	どちらも削減余地がない	
公平性	受益と負担の適正化余地	・公共施設であり、不特定多数が利用する橋梁の補修であることから、受益者負担は公平、公正である。
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある	
	適正である	
総合評価 …上記評価結果の総括		
・橋梁長寿命化修繕計画に基づき、早期対策の必要な橋梁を優先して修繕している。 ・その中でも、個々の橋梁修繕については前年度に調査設計を実施し、内容の精度を上げて事業費削減等に努めている。 ・更なる修繕計画の効率性、経済性の向上を図るため次年度に計画見直しを実施する。		

平成 29 年度 事業説明資料 【 事後評価 】

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計	款	項	目	事業コード	事業名
一般	08	02	04	184100	橋梁維持事業

単位：千円					
		28年度 決算額(A)	29年度 決算額(B)	30年度 現計予算額	決算額前年比 (B-A)
事業費		65,923	87,104		21,181
財 源 内 訳	国・県	37,200	41,619		4,419
	地方債	4,200	2,400		△ 1,800
	その他				
	一般財源	24,523	43,085		18,562

※特定財源の内訳
・国／社会資本整備総合交付金 ・地方債／公共事業等債

事業期間	○	単年度繰返	期間限定	〔平成 年度 ～ 平成 年度〕
部重点施策における目標				
安全で利便性の高い道路の整備を進める				
事業開始の背景・経緯				
橋梁の老朽化対策として修繕工事している。ここ数年で耐用年数を超える橋梁が一気に増加するので、橋梁長寿命化修繕計画を策定し、それに基づき事業を展開している。				
事業概要				
○橋梁維持 橋梁修繕設計、橋梁維持修繕工事、橋梁点検、橋梁予備設計				
【26年度】 橋梁補修工事 2橋（朝日橋・折居橋）				
【27年度】 橋梁補修工事 1橋（朝日橋） 調査設計 1橋（猫塚南境橋）				
【28年度】 橋梁補修工事 1橋（川原橋） 調査設計委託業務 3橋（横枕橋、東本館橋、中田橋） 橋梁定期点検 L≦15m 250 橋				
【29年度】 橋梁補修工事 4橋（猫塚南境橋、横枕橋、東本館橋、中田橋） 橋梁定期点検（L<15m 50橋、JR橋1橋 L≧15m JR橋 6橋） 調査設計委託業務 3橋（野田橋、松園橋、天下田橋）				
意見・要望等の状況（市政懇談会や支所執務、議会答弁対応その他意見・提言等）				

担当部署	部名	建設部	課名	道路課	担当係長	菊池	内線	550
(単位：千円)								

《事業手法の詳細》…概略図による事業手法の詳細と事業費の内訳を記載すること。 【適宜、セルは結合して構わないが、結合した1つのセル内は1文章程度にとどめること。】	
【25年度】	
・天王橋（修繕工事）43,394千円 ・折居橋（調査設計）2,329千円 ・橋梁修繕（市内一円、調査設計、橋梁点検）5,461千円 ・橋守事業（事務費）209千円	
【26年度】	
・朝日橋（修繕工事）62,000千円 ・折居橋（修繕工事）14,000千円 ・橋梁長寿命化修繕計画（橋梁点検 L≧15m 201橋）25,000千円 ・橋梁耐震化調査（市内）10,000千円 ・橋守事業（事務費）426千円	
【27年度】	
・朝日橋（修繕工事）73,200千円 ・橋梁長寿命化修繕計画（計画見直し L≧15m 201橋、橋梁点検 1橋）24,147千円 ・橋梁長寿命化修繕計画（計画見直し L≧15m 201橋、橋梁点検 1橋）34,478千円 ・橋梁耐震化調査（市内）8,000千円 ・橋守事業（事務費）423千円	
【28年度】	
・横枕橋（修繕設計）5,000千円 ・東本館橋（修繕設計）3,000千円 ・中田橋（修繕設計）4,000千円 ・川原橋（補修業務、河川占用資料作成業務）2,500千円 ・橋梁長寿命化修繕計画（計画見直し L≦15m 250 橋、橋梁点検 1橋）50,000 千円 ・橋守事業（事務費）423千円	
【29年度】	
・大沢橋（橋梁修繕設計）6,070千 ・橋梁点検 L<15m 50橋、JR橋1橋、L≧15 6橋JR橋（橋梁点検）36,971千円 ・朝日橋・井戸向橋（橋梁添架架討業務委託）11,880千円 ・北湯口跨道橋（高速道路交差跨道橋点検業務委託）3,915千円 ・JR跨線橋（穴沢跨線人道橋外6橋）（橋梁点検負担 27,966千円 ・橋守事業（橋梁点検）302千円	

平成 29 年度 事務事業評価シート 【 事後評価 】

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計	款	項	目	事業コード	事業名
一般	08	02	04	188600	橋梁維持事業費(繰越分)
総合計画	重点戦略	防災力の強化			
	分野	暮らし			
	政策	2-2 生活基盤の充実			
	施策	1 道路環境の充実			
目的	橋梁の維持管理				
対象	道路利用者、市民、修繕が必要な橋梁				
意図	橋梁修繕により、市内を安全で快適に移動できる。				
事業概要 …上記目的を実現するための事業手法を記載すること					
【26年度】 橋梁補修工事 2橋（朝日橋・折居橋） 【27年度】 橋梁補修工事 1橋（朝日橋） 調査設計 1橋（猫塚南境橋） 【28年度】 橋梁補修工事 1橋（川原橋） 調査設計委託業務 3橋（横枕橋、東本館橋、中田橋） 橋梁定期点検 L≦15m 140 橋					
市民協働の形態		共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定	
		後援・協賛	補助・助成	委託	
活動指標（上記「事業概要」に対応）		単位	区分	28年度(実績)	29年度(実績) 30年度(計画)
① 修繕橋梁数	橋	計画		3	2
		実績		3	1
②		計画			
		実績			
③		計画			
		実績			
成果指標（上記「意図」に対応）		単位	区分	28年度(実績)	29年度(実績) 30年度(計画)
① 修繕対象橋梁修繕率（H21～H35：全26橋）	%	目標		15.0	42.0
		実績		19.0	27.0
②		目標			
		実績			
③		目標			
		実績			
成果指標の達成度	目標値より高い		○	概ね目標値どおり	目標値より低い

成果指標の達成度の要因分析 (新規事業及び成果指標を変更した場合は、その成果指標を設定した考え方、目標値の根拠を記載)		
修繕対象橋梁（H21～H35：全26橋）のうち、26年度までに4橋が修繕完了。 4橋／26橋＝約15％とした。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	・公共施設である橋梁の補修なので妥当である。
	○ 妥当である	
	見直し余地がある	
有効性	○ 妥当でない	
	成果の向上余地	・前年度に橋梁補修内容の調査設計を実施し、補修内容、予算について精度を上げている。
	向上余地がある	・以前より上記内容に取り組み、橋梁長寿命化において成果をあげていることから、更なる向上は困難である。
効率性	○ 向上余地がない	・公共物の老朽化は年々進むことから、現在の取り組みを維持し、継続的に事業を進める必要がある。
	事業費・人件費の削減余地	・前年度に個々の橋梁補修内容について調査設計を実施。
	事業費の削減余地がある	・それにより適正な補修方法、内容を検討。
公平性	人件費の削減余地がある	・あわせてコスト削減についても検討。
	○ どちらも削減余地がない	・積算、施工管理に係る事務経費の適正な遂行に必要な最低限の事務を行っている。
	受益と負担の適正化余地	・公共施設であり、不特定多数が利用する橋梁の補修であることから、受益者負担は公平、公正である。
受益機会の見直し余地がある		
費用負担の見直し余地がある		
○ 適正である		
総合評価 …上記評価結果の総括		
・橋梁長寿命化修繕計画に基づき、早期対策の必要な橋梁を優先して修繕している。 ・その中でも、個々の橋梁修繕については前年度に調査設計を実施し、内容の精度を上げて事業費削減等に努めている。 ・更なる修繕計画の効率性、経済性の向上を図るため次年度に計画見直しを実施する。		

平成 29 年度 事業説明資料 【 事後評価 】

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計	款	項	目	事業コード	事業名
一般	08	02	04	188600	橋梁維持事業費(繰越分)

単位：千円

		28年度 決算額(A)	29年度 決算額(B)	30年度 現計予算額	決算額前年比 (B-A)
事業費		108,497	39,307		△ 69,190
財 源 内 訳	国・県	61,408	23,584		△ 37,824
	地方債	25,300	6,200		△ 19,100
	その他				0
	一般財源	21,789	9,523	0	△ 12,266

事業期間	単年度繰返	〇	期間限定	〔平成 年度 ～ 平成 年度〕
部重点施策における目標				
安全、安心で快適な生活基盤の充実に努めます。				
事業開始の背景・経緯				
橋梁の老朽化対策として修繕工事している。ここ数年で耐用年数を超える橋梁が一気に増加するので、橋梁長寿命化修繕計画を策定し、それに基づき事業を展開している。				
事業概要 …目的を実現するための事業手法を記載すること				
【平成28年度】 ・橋梁補修工事 1橋（川原橋） ・調査設計委託業務 3橋（横枕橋、東本館橋、中田橋） ・橋梁定期点検 L ≤15m 140橋→250橋 28,275千円→50,000千円（+21,725千円）				
事業を展開する上での課題、留意事項 / 意見・要望等				
・調査設計内容を発注者側で精査するにあたり、新工法、新技術の情報をインターネット、情報誌等を活用し収集するなどの取り組みを通した更なる精査により、最適工法の選定、コスト削減を図る。 ・27年度に長寿命化修繕計画見直しを実施予定なので、次年度よりその結果を反映させ、適切な維持補修を行う。 ・橋梁定期点検の実施が必要（5年／回） 対象：2m以上の道路橋すべて ・橋梁長寿命化修繕計画の追加策定が必要（橋長15m未満について）				

担当部署 部名 建設部 課名 道路課 担当係長 菊池章友 内線 550
(単位：千円)

《事業手法の詳細》…概略図による事業手法の詳細と事業費の内訳を記載すること。
【適宜、セルは結合して構わないが、結合した1つのセル内は1文章程度にとどめること。】

【29年度】			
	事業費	国費	地方債
・横枕橋、東本館橋、中田橋（修繕設計）	17,588千円	10,553千円	6,200千円
・橋梁点検 L ≤15m	21,719千円	13,031千円	対象外
合計	39,307千円	23,584千円	6,200千円

【参考】 橋梁点検の状況
○L ≤15m 点検対象 837橋
・H27→28国補正繰越分 414橋
・H28 当初 250橋
6月補正 △110橋（交付金減額内示による減）
12月補正 +110橋（国補正交付金増額）
H28分（繰越含む） 664橋+α
*H29（予定） 約173橋
○L ≥15m 点検対象 211橋 点検実施済み
*次回点検はH30より順次実施予定

平成 29 年度 事務事業評価シート 【 事後評価 】

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計		款	項	目	事業コード	事業名		
一般		08	02	05	184130	橋梁整備事業		
総合計画	分野	暮らし						
	政策	2-2	生活基盤の充実					
	施策	1	道路環境の充実					
目的		老朽化、狭あい幅員の橋梁架け替え						
対象		整備が必要な市道橋梁、市道利用者（車両、歩行者、沿線住民）						
意図		安全で快適な通行が可能になる。						
事業概要 …上記目的を実現するための事業手法を記載すること								
○橋梁整備 橋梁架替工事 平成28年度 豊沢橋：上部工桁製作工事（H28-29債務負担、下部工A1, P1, P2（H27-28債務負担） 太田橋：上部工製作・上部工架設工事（H28年度完成予定） 平成29年度 豊沢橋：上部工桁製作工事（H28-29債務負担） 上部工桁架設工事（H29-30債務負担）取付 道路改良舗装								
市民参画の有無 【 対象外 】								
市民協働の形態		共催		実行委員会・協議会		事業協力・協定		
		後援・協賛		補助・助成		委託		
活動指標（上記「事業概要」に対応）		単位		区分	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(計画)	
①	測量調査設計	橋	計画	2	2	1		
			実績	2	2			
②	橋梁工事及び取付道路工事	橋	計画	3	2	1		
			実績	3	2			
③			計画					
			実績					
成果指標（上記「意図」に対応）		単位		区分	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(計画)	
①	整備（完成）率（天遊橋、似内橋、豊沢橋、太田橋）	%	目標	75.0	75.0			
			実績	75.0	75.0			
②			目標					
			実績					
③			目標					
			実績					
成果指標の達成度		目標値より高い		○	概ね目標値どおり		目標値より低い	

成果指標の達成度の要因分析 (新規事業及び成果指標を変更した場合は、その成果指標を設定した考え方、目標値の根拠を記載)		
・平成26年度似内橋完成（完成2橋/整備予定4橋＝整備率50％） ・平成28年度太田橋完成（完成3橋/整備予定4橋＝整備率75％）		
目的妥当性	公共関与の妥当性	市管理橋の整備のため、妥当である。
	妥当である	
	見直し余地がある	
有効性	成果の向上余地	本事業は、市道橋梁の新設・架け替えを行うものであり、整備後は道路環境を満足させた水準となることから、さらなる向上は難しい。
	向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	事業を実施するうえでは、計画・設計・説明会・関係機関協議・用地取得・工事積算・工事監督業務など多岐にわたるが、現在でも効率的な事業の執行に努めている。 また、外部委託を行なうなど人件費の削減に努めているが、守秘義務等の問題があり、外部委託にも限界がある。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
公平性	受益と負担の適正化余地	市道橋梁は不特定多数の人や車が利用するものであり、受益者を特定することは出来ない。
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある	
総合評価 …上記評価結果の総括		
・橋梁整備の事業費は高額であるが、重要性、緊急性、要望等を検討し、必要な橋梁整備を今後も進める必要がある		

平成 29 年度 事業説明資料 【 事後評価 】

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計	款	項	目	事業コード	事業名
一般	08	02	05	184130	橋梁整備事業

単位：千円					
		28年度 決算額(A)	29年度 決算額(B)	30年度 現計予算額	決算額前年比 (B-A)
事業費		402,105	367,654		△ 34,451
財 源 内 訳	国・県	241,263	204,063		△ 37,200
	地方債	144,700	147,000		2,300
	その他				
	一般財源	16,142	16,591		449

※特定財源の内訳	
・国／社会資本整備総合交付金	
・地方債／公共事業等債	

事業期間	○	単年度繰返	期間限定	〔平成 年度 ～ 平成 年度〕
部重点施策における目標				
安全で利便性の高い道路の整備を進める				
事業開始の背景・経緯				
老朽化および交通量の増加に伴い、架け替えおよび拡幅による整備が必要となった。				
事業概要				
○橋梁整備 橋梁架替工事				
平成28年度 豊沢橋：上部工桁製作工事（H28-29債務負担、下部工A1, P1, P2（H27-28債務負担） 太田橋：上部工製作・上部工架設工事（H28年度完成予定）				
平成29年度 豊沢橋：上部工桁製作工事（H28-29債務負担） 上部工桁架設工事（H29-30債務負担） 取付 道路改良舗装				
意見・要望等の状況（市政懇談会や支所執務、議会答弁対応その他意見・提言等）				

担当部署	部名	建設部	課名	道路課	担当係長	菊池	内線	550
(単位：千円)								

《事業手法の詳細》…概略図による事業手法の詳細と事業費の内訳を記載すること。
【適宜、セルは結合して構わないが、結合した1つのセル内は1文章程度にとどめること。】

平成26年度橋梁整備事業	
① 豊沢橋	事業費：366,384千円 昭和8年 架橋 事業期間 平成20年度～平成29年度予 橋梁延長 L=133.0m 幅員 W=15.0m
② 太田橋	事業費：361,200千円 昭和35年 架橋 事業期間 平成22年度～平成29年度予定 橋梁延長 L=144.0m 幅員 W=11.0m 道路改良 L=320.0m 幅員 W= 8.5m
平成27年度橋梁整備事業	
① 豊沢橋	事業費：190,384千円（下部工） 昭和8年 架橋 事業期間 平成20年度～平成30年度予 橋梁延長 L=133.0m 幅員 W=15.0m
② 太田橋	事業費：358,200千円（下部工、上部工製作、上部工架設） 昭和35年 架橋 事業期間 平成22年度～平成29年度予定 橋梁延長 L=144.0m 幅員 W=11.0m 道路改良 L=320.0m 幅員 W= 8.5m
平成28年度橋梁整備事業	
① 豊沢橋	事業費：191,405千円（上部工製作H28現年分） 昭和8年 架橋 事業期間 平成20年度～平成30年度予 橋梁延長 L=133.0m 幅員 W=15.0m
② 太田橋	事業費：210,700千円（上部工製作、上部工架設、旧橋撤去、護岸工） 昭和35年 架橋 事業期間 平成22年度～平成29年度予定 橋梁延長 L=144.0m 幅員 W=11.0m 道路改良 L=320.0m 幅員 W= 8.5m
平成29年度橋梁整備事業	
① 豊沢橋	事業費：367,654千円（上部工製作H29現年分、上部工架設H29分、取付道路） 昭和8年 架橋 事業期間 平成20年度～平成30年度予 橋梁延長 L=133.0m 幅員 W=15.0m

平成 29 年度 事務事業評価シート 【 事後評価 】

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計		款	項	目	事業コード	事業名	
一般		08	02	06	184160	交通安全環境整備事業	
総合計画	分野	暮らし					
	政策	2-2	生活基盤の充実				
	施策	1	道路環境の充実				
目的		歩行者の安全確保					
対象		道路利用者、市民					
意図		安全に安心して通行できるようになる。					
事業概要 …上記目的を実現するための事業手法を記載すること							
○交通安全施設整備測量設計、用地測量、支障物件調査算定等の業務委託 歩道整備工事、電線地中化工事、融雪装置整備工事 事業用地買収、支障物件移転補償、電柱・水道等移転補償							
【27年度】・歩道整備工事 430m(烏森北中線、四日町山居線、本丸線、吹張町滝ノ沢線、上小舟渡方八丁線、駅前南線) 6路線 ・電線共同溝(上町成田線) 1路線 【28年度】・歩道整備工事 完成延長は0m パリアフリー等(吹張町滝ノ沢線、上小舟渡方八丁線、駅前南線3路線 ・電線共同溝(上町成田線) 1路線 【29年度】・歩道整備工事 945m(城内大通り一丁目線(城内工区)、上町成田線(南城工区)、上小舟渡方八丁線、青雲台線) パリアフリー等(吹張町滝ノ沢線、上台朝日橋線) 6路線 ・電線共同溝(上町成田線) 1路線 ・融雪設備 180m(上町成田線) 1路線							
市民参画の有無 【 対象外 】							
市民協働の形態		共催		実行委員会・協議会		事業協力・協定	
		後援・協賛		補助・助成		委託	
活動指標 (上記「事業概要」に対応)		単位		区分	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(計画)
①	当該年度の歩道整備工事発注件数	件	計画		2	4	
			実績		2	3	
②			計画				
			実績				
③			計画				
			実績				
成果指標 (上記「意図」に対応)		単位		区分	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(計画)
①	歩道整備率 (H25～H29: 全2,910m)	%	目標		44.0	89.0	
			実績		51.0	58.0	
②			目標				
			実績				
③			目標				
			実績				
成果指標の達成度		目標値より高い		概ね目標値どおり		○	目標値より低い

成果指標の達成度の要因分析 (新規事業及び成果指標を変更した場合は、その成果指標を設定した考え方、目標値の根拠を記載)		
平成25年度から平成29年度の5カ年の歩道整備計画延長を基に、それに対する各年度の歩道整備完了予定延長の割合を目標値として設定する。 歩道整備率＝歩道整備完了延長／歩道整備計画延長 (5カ年: 2,910m) H25実績 275m H26実績 349m H27実績 423m H28実績 435m(吹張町・駅前南・青雲台線) H28実績値 1,482m/2,910m=50.92=50% H29計画(吹張町滝ノ沢589m, 上台朝日橋線300m, 青雲台線220m) 計1,109m H29目標値＝(H28までの見込み値1,482+1,109m)=2,591m 2,591m/2,910m=89.0% H29実績＝(H28までの見込み値1,482+198m)=1,680m 1,680m/2,910m=57.7%		
目的妥当性	公共関与の妥当性	・公共施設である道路の整備であるため妥当である。
	☐ 妥当である	
	☐ 見直し余地がある	
有効性	成果の向上余地	・現況の道路敷地内で有効的に歩道整備、段差解消を実施しているため、予算内での更なる向上は困難である。 ・今後も歩道整備等の要望に応えるため、現在の取り組みを維持し、事業を継続する必要がある。
	☐ 向上余地がある	
	☐ 向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	・歩道整備は、用地取得せずに現況道路敷地内を有効活用するなど工夫して経費の節減に努めている。 ・積算、施工管理に係る事務経費の適正な遂行に必要な、最低限の事務を行っている。
	☐ 事業費の削減余地がある	
	☐ 人件費の削減余地がある	
公平性	受益と負担の適正化余地	・市道の整備であり、地域住民に限らず不特定多数が利用することから、市が整備するものであるため受益者負担は公平、公正である。
	☐ 受益機会の見直し余地がある	
	☐ 費用負担の見直し余地がある	
総合評価 …上記評価結果の総括		
・市道整備は道路管理者である市が行うものであり、現況道路敷地内を有効活用するなど工夫して歩道整備を進め、コスト縮減等に努めている。		

平成 29 年度 事業説明資料 【 事後評価 】

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計	款	項	目	事業コード	事業名
一般	08	02	06	184160	交通安全環境整備事業

単位：千円

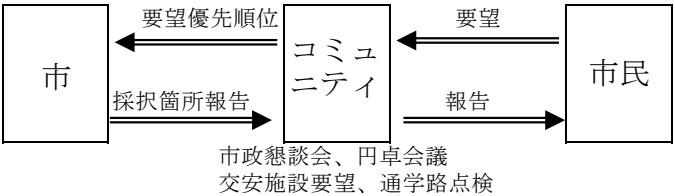
		28年度 決算額(A)	29年度 決算額(B)	30年度 現計予算額	決算額前年比 (B-A)
事業費		143,591	148,630		5,039
財 源 内 訳	国・県	48,305	59,298		10,993
	地方債	28,900	40,100		11,200
	その他				
	一般財源	66,386	49,232		△ 17,154

※特定財源の内訳
・国／社会資本整備総合交付金
・地方債／公共事業等債 合併特例債

事業期間	○	単年度繰返	期間限定	〔平成 29 年度 ～ 平成 29 年度〕
部重点施策における目標				
安全で利便性の高い道路の整備を進める				
事業開始の背景・経緯				
歩行者の安全確保のため、歩道の新設、バリアフリー化を実施している。現在は各地域、障がい者団体等の要望に基づき、それぞれのニーズに応える手法により事業を展開している。				
事業概要				
○交通安全施設整備測量設計、用地測量、支障物件調査算定等の業務委託 歩道整備工事、電線地中化工事、融雪装置整備工事 事業用地買収、支障物件移転補償、電柱・水道等移転補償				
【27年度】・歩道整備工事 430m(烏森北中線、四日町山居線、本丸線、吹張町滝ノ沢線、上小舟渡方八丁線、駅前南線) 6路線 ・電線共同溝(上町成田線) 1路線				
【28年度】・歩道整備工事 完成延長は0m バリアフリー等(吹張町滝ノ沢線、上小舟渡方八丁線、駅前南線3路線) ・電線共同溝 (上町成田線) 1路線				
【29年度】・歩道整備工事 945m (城内大通り一丁目線(城内工区)、上町成田線(南城工区)、上小舟渡方八丁線、青雲台線) バリアフリー等(吹張町滝ノ沢線、上台朝日橋線) 6路線				
・電線共同溝(上町成田線) 1路線 ・融雪設備 180m(上町成田線) 1路線				
意見・要望等の状況(市政懇談会や支所執務、議会答弁対応その他意見・提言等)				

担当部署 部名 建設部 課名 道路課 担当係長 駿河 世紀 内線 574 (単位：千円)

《事業手法の詳細》…概略図による事業手法の詳細と事業費の内訳を記載すること。
【適宜、セルは結合して構わないが、結合した1つのセル内は1文章程度にとどめること。】



【28年度】

- 交通安全施設整備 4路線
(上町成田線(共同溝・照明)・吹張町滝ノ沢線・上小舟渡方八丁線・駅前南線)

事業費	143,591千円	委託料(各支所分)	
委託料	52,350千円	・大迫	10,608千円
工事費	85,882千円	・石鳥谷	4,997千円
用地費	1,350千円	・東和	4,979千円
補償費	4,009千円	合計	20,584千円

【29年度】

- 交通安全施設整備 7路線 歩道完成延長 L=0km
(上町成田線(融雪・南城工区)・吹張町滝ノ沢線・上小舟渡方八丁線
・城内大通り一丁目線(城内工区)・上台朝日橋線・青雲台線)

事業費	127,848千円
委託料	44,707千円 (ほかH30へ繰越 45,400千円) (内交通安全施設整備委託 22,374千円)
工事費	71,096千円 (ほかH30へ繰越 168,380千円)
補償費	12,045千円 (ほかH30へ繰越 1,000千円)

<H30繰越路線> 214,780千円 5路線
・上町成田線(共同溝)・吹張町滝ノ沢線
・城内大通り一丁目線(城内工区)・上台朝日橋線
・青雲台線

委託料(各支所分)	
・大迫	10,340千円
・石鳥谷	5,485千円
・東和	4,957千円
合計	20,782千円

平成 29 年度 事務事業評価シート 【 事後評価 】

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計		款	項	目	事業コード	事業名		
一般		08	02	06	184160	交通安全環境整備事業(繰越分)		
総合計画	分野	暮らし						
	政策	2-2	生活基盤の充実					
	施策	1	道路環境の充実					
目的		歩行者の安全確保						
対象		道路利用者、市民						
意図		安全に安心して通行できるようになる。						
事業概要 …上記目的を実現するための事業手法を記載すること								
○交通安全施設整備測量設計、用地測量、支障物件調査算定等の業務委託 歩道整備工事、電線地中化工事、融雪装置整備工事 事業用地買収、支障物件移転補償、電柱・水道等移転補償								
【26年度】・歩道整備工事 410m(上町成田線、城内吹張町線)2路線 ・融雪設備 280m(上町成田線)1路線 【27年度】・歩道整備工事 430m(烏森北中線、四日町山居線、本丸線、吹張町滝ノ沢線、 上小舟渡方八丁線、駅前南線) 6路線 ・電線共同溝(上町成田線) 1路線 【28年度】・歩道整備工事 完成延長は0m バリアフリー等 (吹張町滝ノ沢線、上小舟渡方八丁線、駅前南線) 3路線 内 駅前南線 →H28繰越 ・電線共同溝 (上町成田線) 1路線 →H28繰越								
市民参画の有無 【 対象外 】								
市民協働の形態		共催		実行委員会・協議会		事業協力・協定		
		後援・協賛		補助・助成		委託		
活動指標 (上記「事業概要」に対応)		単位		区分	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(計画)	
①	当該年度の歩道整備工事発注件数	件	計画		2	4		
			実績		2	3		
②			計画					
			実績					
③			計画					
			実績					
成果指標 (上記「意図」に対応)		単位		区分	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(計画)	
①	歩道整備率 (H25～H29: 全2,910m)	%	目標		44.0	89.0		
			実績		51.0	58.0		
②			目標					
			実績					
③			目標					
			実績					
成果指標の達成度		目標値より高い		概ね目標値どおり		○	目標値より低い	

成果指標の達成度の要因分析 (新規事業及び成果指標を変更した場合は、その成果指標を設定した考え方、目標値の根拠を記載)		
平成25年度から平成29年度の5カ年の歩道整備計画延長を基に、それに対する各年度の歩道整備完了予定延長の割合を目標値として設定する。 歩道整備率＝歩道整備完了延長／歩道整備計画延長 (5カ年: 2,910m) H25実績 275m H26実績 349m H27実績 423m H28実績 435m(吹張町・駅前南・青雲台線) H28実績値 1,482m/2,910m=50.92=50% H29計画(吹張町滝ノ沢589m, 上台朝日橋線300m, 青雲台線220m) 計1,109m H29目標値＝(H28までの見込み値1,482+1,109m)=2,591m 2,591m/2,910m=89.0% H29実績＝(H28までの見込み値1,482+198m)=1,680m 1,680m/2,910m=57.7%		
目的妥当性	公共関与の妥当性	・公共施設である道路の整備であるため妥当である。
	○ 妥当である	
	見直し余地がある	
有効性	成果の向上余地	・現況の道路敷地内で有効的に歩道整備、段差解消を実施しているため、予算内での更なる向上は困難である。 ・今後も歩道整備等の要望に応えるため、現在の取り組みを維持し、事業を継続する必要がある。
	向上余地がある	
	○ 向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	・歩道整備は、用地取得せずに現況道路敷地内を有効活用するなど工夫して経費の節減に努めている。 ・積算、施工管理に係る事務経費の適正な遂行に必要な、最低限の事務を行っている。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
公平性	受益と負担の適正化余地	・市道の整備であり、地域住民に限らず不特定多数が利用することから、市が整備するものであるため受益者負担は公平、公正である。
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある	
総合評価 …上記評価結果の総括		
・市道整備は道路管理者である市が行うものであり、現況道路敷地内を有効活用するなど工夫して歩道整備を進め、コスト縮減等に努めている。		

平成 29 年度 事業説明資料 【 事後評価 】

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計	款	項	目	事業コード	事業名
一般	08	02	06	184160	交通安全環境整備事業(繰越分)

単位：千円

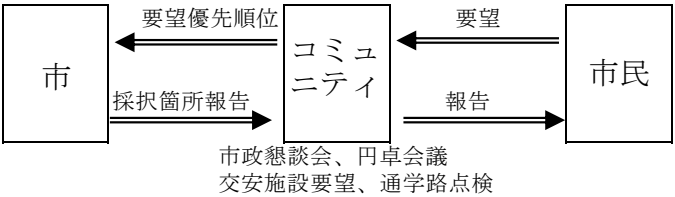
		28年度 決算額(A)	29年度 決算額(B)	30年度 現計予算額	決算額前年比 (B-A)
事業費		143,591	25,726		△ 117,865
財 源 内 訳	国・県	48,305	15,436		△ 32,869
	地方債	28,900	9,100		△ 19,800
	その他				
	一般財源	66,386	1,190		△ 65,196

※特定財源の内訳
・国／社会資本整備総合交付金
・地方債／公共事業等債

事業期間	○	単年度繰返	期間限定	[平成 28 年度 ～ 平成 29 年度]
部重点施策における目標				
安全で利便性の高い道路の整備を進める				
事業開始の背景・経緯				
歩行者の安全確保のため、歩道の新設、バリアフリー化を実施している。現在は各地域、障がい者団体等の要望に基づき、それぞれのニーズに応える手法により事業を展開している。				
事業概要				
○交通安全施設整備測量設計、用地測量、支障物件調査算定等の業務委託 歩道整備工事、電線地中化工事、融雪装置整備工事 事業用地買収、支障物件移転補償、電柱・水道等移転補償				
【26年度】・歩道整備工事 410m(上町成田線、城内吹張町線)2路線 ・融雪設備 280m(上町成田線)1路線				
【27年度】・歩道整備工事 430m(烏森北中線、四日町山居線、本丸線、吹張町滝ノ沢線、上小舟渡方八丁線、駅前南線) 6路線 ・電線共同溝(上町成田線) 1路線				
【28年度】・歩道整備工事 完成延長は0m バリアフリー等 (吹張町滝ノ沢線、上小舟渡方八丁線、駅前南線) 3路線 内 駅前南線 →H28繰越 ・電線共同溝 (上町成田線) 1 路線 →H28繰越				
意見・要望等の状況(市政懇談会や支所執務、議会答弁対応その他意見・提言等)				

担当部署	部名	建設部	課名	道路課	担当係長	駿河 世紀	内線	574
(単位：千円)								

《事業手法の詳細》…概略図による事業手法の詳細と事業費の内訳を記載すること。
【適宜、セルは結合して構わないが、結合した1つのセル内は1 文章程度にとどめること。】



【28年度】

- 交通安全施設整備 4路線
(上町成田線(共同溝・照明)・吹張町滝ノ沢線・上小舟渡方八丁線・駅前南線)

事業費	143,591千円	委託料(各支所分)	
委託料	52,350千円	・大迫	10,608千円
工事費	85,882千円	・石鳥谷	4,997千円
用地費	1,350千円	・東和	4,979千円
補償費	4,009千円	合計	20,584千円

<H28繰越事業> 25,726千円 (33,290千円) () 内繰越予算

- 歩道整備(工事)
駅前南線 20,345千円 L=0.2km
- 電線共同溝(補償)
上町成田線 5,381千円